



優秀賞

神奈川県遊技場協同組合  
『「車いす空の旅」支援』事業



神奈川県遊技場協同組合  
事務局  
山田岳幸さん

車いす利用の障害者とその家族に、

マイカーを含む交通機関の発達によって、私たちは行きたい場所に気軽に行くことができる。しかし、その恩恵を享受することが難しい人々がいることも忘れてはならない。たとえば車いすを利用している人にとっては、ちょっとした旅行にもいろいろな困難がともなう。いきおい、出かけることがためらわれ、旅行の機会が少なくなるというのが現状ではないだろうか。

神奈川県遊技場協同組合は、さまざまな社会貢献活動に積極的に取り組むために設立した神奈川県福祉事業協会と一体となり、車いすを利用している障害者に飛行機の旅を楽しんでもらおうという神奈川県厚生文化事業団が主催する「車いす空の旅」事業を1987年以来、継続的に支援している。これまでの支援金総額は5700万円に達しているほか、神奈川県新聞社が制作する特集記事の協賛広告費として、毎年2回、計150万円を拠出している。また、資金支援だけでなく、県遊協の職員がボランティアとして加わり、旅行に参加した障害者やその家族、各方面から参加しているボランティアとの交流を深めることで、業界に対する理解の向上に貢献しているほか、そこでの体験をその後の社会貢献活動の実践に役立てようとしている。

2008年の「車いす空の旅」の行き先は、沖縄(4月10日~12日)と北海道(9月11日~13日)である。参加者は、支援先団体のひとつである神奈川県肢体不自由児者父母の会連合会から募った車いす利用者とその家族、県内の社会福祉協議会から派遣されたボランティア、同じくボランティアである県遊協の職員で、2回あわせて総



沖縄の琉球村で伝統的な盆踊りを堪能



船に乗って阿寒湖をクルージング

ゆっくりと飛行機の旅を楽しんでもらう



羽田空港の出発ゲートまで車いすを押して見送る、平川正寿 神奈川県遊技場協同組合理事長

勢148名が参加した。

沖縄出発に先立ち、羽田空港で行われた結団式では、平川正寿 神奈川県遊技場協同組合理事長・神奈川県福祉事業協会会長が激励のあいさつ。その後、県遊協の職員とともに、参加者の車いすを押しながら出発ゲートまで見送った。一行は琉球村で伝統的盆踊りの輪に加わったり、民族衣装を着て記念撮影をしたり、また、沖縄美ら海水族館では、ジンベイザメやマンタの大きさに驚き、間近で見るイルカに顔をほころばせていた。ホテルではボランティアの介助のもと、露天風呂に入り、カラオケ大会で盛り上がった。北海道では、阿寒湖、摩周湖、網走オホーツク流水館などをバスで巡った。タンチョウヅルに遭遇し、北海道の味覚を堪能し、湖上クルージングを楽しみ、さらに流水館ではクリオネを見、本物の流水に触れ、はじめて氷点下の世界を体験した。温泉やカラオケ大会では、ボランティアともども楽しい時間を過ごした。

家族を含む参加者からは、「私たち親子にとって、忘れられない貴重な旅となりました。沖縄という遠い所は、まず行くことは不可能と断っていましたので……夢のようです」「障害のある息子と出かけた時に思うのですが……いろいろと難しいものがあり、いつも手軽に楽しんで旅行に行けませんでした……しかし、この旅行はスケジュールにゆとりがあり、移動や風呂は頼もしいスタッフの手助けがあり、また宿泊場所も食べるものも配慮が行き届



神奈川県新聞に掲載された事業の模様を紹介する記事

ていました」「娘が生まれてから2泊以上の旅は初めてであり……娘はまだ言葉を持たないのですが、彼女も彼女なりに、旅を心から楽しんでいる様子でした」といった感謝の手紙が寄せられているが、その内容は「車いす空の旅」事業の周到な準備や意義を象徴している。

さらに神奈川県新聞紙面の協賛広告(年2回)や空の旅の模様を伝える記事(去年は計5回)を通じて、この支援事業は行政・福祉団体や一般の人々に広く認知され、パチンコ・パチスロ業界の社会貢献活動のPRとイメージアップにもつながっている。県遊協では、このような形で社会とつながり、人と人の結節点としての役割を果たしていける限り、今後も支援を継続していく覚悟だという。